



日本植物分類学会 ニュースレター

No. 54

Sept. 2014

今号のトピックス

新会長・新評議員が決定しました。
→ 2 ページ

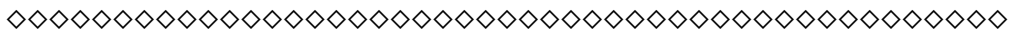
学会賞の受賞候補者が募集されています。(9/26 〆切)
→ 3 ページ

メルボルン規約日本語版のお知らせ。
→ 8 ページ



目 次

会長および評議員選挙の結果	2
評議員追加選出の結果について	2
諸報告	
庶務報告 (2014 年 6 月 ~ 7 月)	3
お知らせ	
2014 年度日本植物分類学会講演会のお知らせ	3
第 14 回 (2015 年度) 日本植物分類学会賞 (学会賞および奨励賞) の 受賞候補者の募集	3
寄稿	
学名のラテン語 (16)	4
植物研究会・同好会紹介	
「日本シダの会」	6
会員消息	8



会長および評議員選挙の結果

選挙管理委員長 川窪 伸光

日本植物分類学会ニュースレター No.53 で公示された日本植物分類学会会長および評議員選挙の開票結果についてお知らせします。

開票は2014年7月28日(月)に岐阜大学教育学部(岐阜市)において、本学会会員の高橋弘氏、須山知香氏の立ち会いのもとで行われました。開票の結果、以下の方々が次期会長および評議員に決まりました。

【会長】

当選	角野 康郎	71 票
次点	西田 治文	29 票

(有効投票数 129 票)

【評議員】

当選	池田 博	31 票
	梶田 忠	29 票
	黒沢 高秀	29 票
	永益 英敏	29 票
	田村 実	26 票
	西田 治文	24 票
	海老原 淳	23 票
	米倉 浩司	19 票
次点	高宮 正之	18 票

(有効投票数 121 票)

評議員追加選出の結果について

評議員 池田 博

選挙管理委員長からのご報告のとおり、次期評議員として8名(池田博、海老原淳、梶田忠、黒沢高秀、田村実、永益英敏、西田治文、米倉浩司)が選挙によって選出されました。「役員等の選出についての細則」第4条の規定に基づき、上の8名の合議によって下記の4名を評議員として追加選出しました。

岡崎 純子、角川 洋子、坪田 博美、布施 静香(敬称略)

諸報告

庶務報告 (2014 年 6 月～7 月)

庶務幹事 志賀 隆

第 5 回「日本学術振興会育志賞」受賞候補者を日本植物分類学会から日本学術振興会に推薦した (6 月 9 日)。

お知らせ

2014 年度日本植物分類学会講演会のお知らせ

講演会担当委員 岡崎 純子

平成 26 年度の日本植物分類学会講演会は、大阪学院大学の林一彦先生にお世話いただき、次のとおり開催いたします。演題などの詳細につきましては次回のニュースレターでご案内いたします。

【日時】2014 年 12 月 13 日 (土) 午前 10 時～午後 4 時 40 分

【講演会場】大阪学院大学・2 号館地下 1 階 2 号教室 (02-B1-02 教室)

〒564-8544 大阪府吹田市岸部南 2 丁目 36 番 1 号 (電話：06-6381-8434)

【会場までの行き方】JR 東海道本線岸辺駅、阪急京都線正雀駅から大阪学院大学までともに徒歩 5 分、詳しくは大学の HP (<http://www.osaka-gu.ac.jp/guide/campus/access.html>) から「交通アクセス」をご覧ください。

【予定講演者】長谷部 光泰 (基礎生物学研究所), 掛澤 明弘 (京都大学大学院), 小林 禧樹 (兵庫県植物誌研究会), 末次 健司 (京都大学大学院), 菅原 敬 (首都大学東京), 矢野 興一 (岡山理科大学)

第 14 回 (2015 年度) 日本植物分類学会賞 (学会賞および奨励賞) の 受賞候補者の募集

日本植物分類学会会長 角野 康郎

学会賞選考委員長 高宮 正之

以下の 2 つの賞の受賞候補者を募集します。候補者は、学会賞選考規定第 2 条に基づき、以下に該当する方です。自薦、他薦を問わず、会員の皆様からの積極的な応募・推薦を期待しております。選考規定やこれまでの受賞者名等は、学会ホームページをご参照ください。

「日本植物分類学会賞」：植物分類学および日本植物分類学会の発展に特に顕著な貢献が認められた者に授与する。受賞者の資格は、10 年以上継続して本会会員である者とする。

「日本植物分類学会奨励賞」：受賞年の 4 月 1 日において満 38 歳以下で、優れた研究業績をあげた将来有望な研究者 (学生を含む) に授与する。受賞者の資格は、3 年以上連続して本会会員であり、主要な研究業績の一部を本会の大会または雑誌に発表している者とする。

募集要領

他薦の場合は、推薦する候補者の氏名と推薦理由、どちらの賞に推薦するかをお知らせください。自薦の場合は、(1)どちらの賞への応募か (2)ご自分の研究全体に関するタイトル (3)略歴(生年月日、学歴、職歴など) (4)調査・業績の概要 (5)業績リスト(論文、著書など)と本学会の大会での発表記録をワード・ファイルあるいはA4用紙に記入して(書式は自由)お送りください。自薦、他薦を問わず、さらに必要な資料があれば、学会賞選考委員会から候補者の方に提出を依頼します。応募は、e-mailでのファイル添付、または郵便でお願いします。

- ・書類送付先：〒860-8555 熊本中央区黒髪2-39-1 熊本大学大学院自然科学研究科 高宮正之宛 e-mail: lycopod@aster.sci.kumamoto-u.ac.jp
- ・応募締め切り日：平成26年9月26日(金)
- ・その他：両賞の受賞者は、平成27年3月の日本植物分類学会大会(福島)において表彰されます。また、同大会において受賞講演を行っていただくことを原則としております。

寄稿

学名のラテン語 (16)

永益 英敏 (京都大学総合博物館)

種と種内分類群の学名の形容語－属格の名詞 (1)

前回、学名の形容語として用いられる名詞の形として、同格の名詞について述べたが、属格の名詞も学名の形容語として用いることができる(メルボルン規約 [McNeill et al. 2012], 第23.1条)。属格はかなりややこしいので、今回は基礎的な文法の説明にとどめ、次回に学名の形容語としての解説を行うことにしたい。

ラテン語の名詞には主格、属格、対格、与格、奪格、呼格の6格がある。属格は、所有や、意味上の主語もしくは目的語を示す場合に使われる他、形容詞的に使われることがある。ラテン語の名詞は第一変化から第五変化までの5つに分類され、それぞれ単数・複数があるので10のパターンがあることになる。ラテン語の名詞の語幹は属格でよく保存されており、辞書をひくと、その名詞の属格が併記してあることはすでに述べた(永益 2009)。この属格形をみることで、その名詞がどの変化形に属するのかが知ることができる。Botanical Latin (Stern 1992)のGlossaryでは、名詞の後に大文字のローマ数字でどの変化名詞であるかを示し、第三変化名詞ではさらに小文字のローマ数字で第三変化名詞の中での型を示してある。

第一変化名詞は基本的に主格単数の語尾は-aで終わり、大部分が女性であるが、まれに男性のものもある。この属格の語尾は-ae(単数)、-arum(複数)である。

第二変化名詞は大部分が男性名詞または中性名詞であり、主格単数の語尾が-usで終わるものは男性、-umで終わるものは中性である。ただし、古典ラテン語に現れる-usで終わる樹木の名は基本的に女性である。この属格の語尾は-i(単数)、-orum(複数)である。

ラテン語の名詞の多くは第三変化名詞であり、第一変化名詞や第二変化名詞のように、その性が男性・女性・中性のいずれかに偏っているということはない。第三変化名詞では属格の語尾は単数では-isで終わり、複数では-umまたは-iumで終わる。前者を子音幹、後者をi幹と呼んでいる。第三変化名詞は数も種類も多く、単数主格からは語幹を直ちに推定できないものが多いので、ラテン語の学習では単数主格と属格とを一緒に覚えるのが常である。たとえばōs(口、中性名詞)の単数属格はōris(複数属格はōrum)であり、母音の

長短を除けば同形の *os* (骨, 中性名詞) の単数属格は *ossis* (複数属格は *ossum*) と語幹が全く異なる。植物学で属を意味する *genus* (中性名詞) も第三変化名詞で、属格は *generis* (単数), *generum* (複数) である。

第四変化名詞は語幹が *-u* で終わり、単数主格が *-us* で終わるものは男性、*-ū* で終わるものは中性であるが、いくつかの女性名詞がある。この属格の語尾は *-ūs* (単数), *-uum* (複数) である。植物学で重要な単語である *fructus* (果実, 男性名詞) や *tribus* (族または連, 男性名詞), また *quercus* (櫟, 女性名詞) も第四変化名詞である。単数主格の語尾が第二変化名詞のように *-us* で終わるので紛らわしいが、*fructus* の属格は *fructūs* (単数), *fructuum* (複数) で、第二変化のように *fructī* や *fructōrum* とはならない。

第五変化名詞は主格単数が *-ēs* で終わり、*diēs* (日, 男性名詞) とその合成語を除き、他はすべて女性である。属格は *-ēī* (単数), *-erum* (複数) である。分類の基本単位である *speciēs* (種, 女性) が第五変化名詞であり、属格は *speciēī* (単数), *speciērum* (複数) となる。もの、事、国家などを意味する *rēs* (女性) も第五変化名詞で、ドイツの理学博士 *dr. rer. nat. (doctor rerum naturalium)* や、*Flora Rei-publicae Popularis Sinicae* (中国植物誌 [*res-publica* は共和国]) にその属格形、*rēī* (単数), *rērum* (複数) をみることができる。

名詞の5つの変化形の属格の形をまとめると次のようになる。母音の長短は示されていない。いずれも属格複数語尾は *-um* で終わり、学名の形容語としてみると第一第二変化形容詞の中性単数語尾と紛らわしい。

	属格単数	属格複数
第一変化名詞	<i>-ae</i>	<i>-arum</i>
第二変化名詞	<i>-i</i>	<i>-orum</i>
第三変化名詞	<i>-is</i>	<i>-(i)um</i>
第四変化名詞	<i>-us</i>	<i>-uum</i>
第五変化名詞	<i>-ei</i>	<i>-erum</i>

以下は、ラテン語の名詞の属格がたくさん使われている例である。

国際植物命名規約 (Greuter et al. 2006) の Appendix IIA の標題 :

Nomina familiarum algarum, fungorum, pteridophytorum, et fossilium conservanda et rejicienda

nomina 第三変化中性名詞 *nomen* (学名, 属格単数は *nominis*) の主格複数形

familiarum 第一変化女性名詞 *familia* (科, 同 *familiae*) の属格複数形

algarum 第一変化女性名詞 *alga* (藻, 同 *algae*) の属格複数形

fungorum 第二変化男性名詞 *fungus* (菌, 同 *fungi*) の属格複数形

pteridophytorum 第二変化中性名詞 *pteridophyton* (シダ, 同 *pteridophyti*) の属格複数形

fossilium 第三変化形容詞 *fossilis, e* (掘り出された) の名詞的用法 (化石, 同 *fossilis*) の属格複数形

conservanda 第一変化動詞 *conservo* の動形容詞 *conservandus, a, um* の中性主格複数形 (保存されるべき)

rejicienda 第三変化動詞 *reicio* の動形容詞 *rejiciendus, a, um* の中性主格複数形 (廃棄されるべき)

McNeill, J. et al. (eds.) 2006. International Code of Botanical Nomenclature (Vienna Code). A.R.G. Gantner Verlag KG, Ruggell.

McNeill, J. et al. (eds.) 2012. International Code of Nomenclature for algae, fungi, and plants (Melbourne Code). Koeltz Scientific Books, Königstein.

永益英敏. 2009. 学名のラテン語 (3). 日本植物分類学会ニューズレター 35: 14-15.

Stern, W. T. 1992. Botanical Latin, 4th ed. David & Charles, Newton Abbot Devon.

植物研究会・同好会紹介

「日本シダの会」(英語名「The Nippon Fernist Club」)

岡 武利 (日本シダの会関東支部世話人代表)

「日本シダの会」はシダ研究とシダ趣味の普及を目的として、1952年に歌人であり在野のシダ研究者であった行方沼東および倉田悟、島田梧朗、田川基二、児玉務、瀬戸剛の各氏が発起人となって会員57名で発足しました。以来62年、会員数は650名を超えたこともありましたが、高齢による退会者などもあり、ここ数年は430名前後を推移しています。2002年には当時の日本シダの会代表世話人である中村武久先生が実行委員長となり、日本シダの会50周年記念大会が催され、国内外の研究者による講演会、会員歴40年以上の永年会員の表彰、会報バックナンバーの合冊本出版、50周年記念写真集の出版、50周年記念グッズの販売、八丈島における野外観察会などが大々的に行われました。特に会報第1巻51号から100号および第2巻1号から100号までの合計150号分を3分冊の合冊版として出版したことは特筆されてよいでしょう。なお、会報第1巻1号から50号までは、1982年に日本シダの会30周年事業として合冊本が出版されています。



「日本シダの会
50周年記念大会
参加者」
(2002年8月)

この会は発足当初より「男でも女でも、若い人でも老人も、また専門家も素人も、一切区別しないシダ愛好者の会」を標榜し、細かい規則がないことを美点としてきました。ところが会としての社会活動が広がるにつれ、細目を規定した会則の必要性が生じ、2012年に現在の会則ができました。会則の中で主な事業として、野外観察会、植物園などの見学会、研究発表会、講演会、シダの勉強会、シダ展、標本の同定、会報の発行などを挙げ、適宜実施しています。

会の発足当時は隔月に会報が発行されてきましたが、その後季刊となり、1973年からは年3回の発行となり現在に至っています。

会報にはシダ研究者による研究報告、地域のシダフロアの報告、新分類群・新分布の報告、シダ栽培の秘訣、シダ鑑賞の方法、シダ関連文献の紹介、会員の著書の紹介、シダ紀行、シダの俳句・短歌、エッセイ・小説など、シダに関することであれば何でも掲載し、バラエティーに富んだ紙面になっています。前述のように、日本シダの会75周年、100周年を見据えて、より一層の会報の充実が必要と考えています。

全国の会員が集まる全国大会も、会の発足以来毎年欠かさず開催されています。全国大会は2泊3日で開催され、研究発表会、総会、懇親会、野外観察会のプログラムからなっ

ており、開催地のシダを観察・勉強するよい機会になるとともに、会員の交流の場となっています。今年は62回目の大会で、伊豆大島で開催され、多様なハナワラビ類について現在の日本シダの会会長の佐橋紀男先生から直接教わるができる貴重な機会となりそうです。会の重要な活動の一つである全国大会ですが、御多分にもれず多くのシダ観察地がシカの食害に遭い、多人数で観察できるフィールドが少なくなってきました。今後のフィールド探しが悩みの種です。

会報の発行と全国大会の開催が会の2大事業ですが、倉田悟・中池敏之両先生の編集による「日本のシダ植物図鑑」(東大出版会)の出版も記さなければなりません。これは1997年に終了した、およそ20年にわたる大事業でした。「日本のシダ植物図鑑」は日本に産するシダ600種と雑種302種類を取り扱い、証拠標本に基づいた分布図を載せた画期的なものだと思います。刊行後15年が経過した2012年に、海老原淳さん(国立科学博物館研究員)の執筆による最新の研究結果に基づいた「日本産シダ植物標準図鑑」作成作業がスタートしました。「日本産シダ植物標準図鑑」には標本写真などとともに全種類の分布図を載せる予定です。日本シダの会は新図鑑作成への全面的な協力を会の事業と位置付け、新たな分布調査、生態写真収集などの活動をしているところです。新図鑑は2015年に刊行予定です。どうぞ、ご期待ください。

なお、「日本シダの会」は本部の活動だけではなく、各地域の支部も個別の活動をしており、分布調査にも多大な貢献をしてくれています。会員数の50%ほどを占める関東支部は、月に1回の室内会と年に数回の野外観察会、年に2~3回の小石川植物園見学会などの活動をしています。室内会では、会員による「シダの見分け方」、「シダ旅行で見かけたシダ」や「シダの栽培の仕方」などシダに関わる様々な話と、専門の研究者による最新の研究結果の紹介など2つの講演を柱として、栽培品や文献などの提供品のくじ引きやシダ鑑賞などをおこなっています。また、標本同定も随時おこなっています。

シダといいますと何となく日陰で暗いイメージを待たれがちですが、会員の皆さんは専門の研究者から初心者まで、気楽にお話してできる、明るく楽しい方ばかりです。先に述べましたように、シダがお好きな方であればどなたも入会できます。ご入会をお待ちしています。

● Web サイト

日本シダの会

<http://www.shidanokai.org/>

● 入会方法

年会費 3,000 円

入会の申し込みとともに年会費2年分(6,000円)を以下の口座にお支払ください。

振替 00120-3-158919

名義 日本シダの会

入会翌年の会費は支払い済みとなりますので、重ねて払い込む必要はありません。

● 事務局

〒274-8510

千葉県船橋市三山2-2-1

東邦大学薬学部 佐橋紀男

最新版の命名規約 もうお求めになりましたか？

『国際藻類・菌類・植物命名規約（メルボルン規約）2012 日本語版』

日本植物分類学会 国際命名規約邦訳委員会（訳・編集）、北隆館（発行）

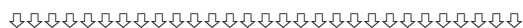
ISBN978-4-8326-0984-6

B5判 263頁 上製本

定価 2,800円（本体 2,593円＋税 8%）

全国の書店または北隆館のホームページ

<http://www.hokuryukan-ns.co.jp/> から注文できます。



入会申込、住所変更、退会届、会費納入、購読申込などは下記へご連絡ください。

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

国立科学博物館 植物研究部

日本植物分類学会 保坂 健太郎（会計幹事）

Phone: 029-853-8967, Fax: 029-853-8401

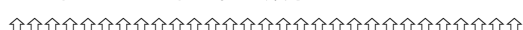
E-mail: khosaka@kahaku.go.jp

会費：一般会員 5,000円、学生会員 3,000円、

団体会員 8,000円

郵便振替口座番号：00120-9-41247

加入者名：日本植物分類学会



* ニュースレターに掲載された記事の著作権は日本植物分類学会が管理いたします。

平成 26（2014）年 9 月 5 日印刷

平成 26（2014）年 9 月 10 日発行

編集兼
発行人 茨城県つくば市天久保 4-1-1
国立科学博物館 植物研究部
海老原 淳

発行所 新潟市西区五十嵐2の町 8050
新潟大学教育学部
自然情報講座
日本植物分類学会